

江良碧松 えら・へきしょう

明治21(1888)年～昭和52(1977)年

山口県熊毛郡田布施町出身。

明治44年7月に『層雲』を読み、翌月、同郷の友人たちと「一夜会」を結成。さらに翌年、『層雲』新年号にてはじめて碧松の句が掲載され、以後も『層雲』誌面で活躍する。

昭和20年、「一夜会」が「みどり会」として再結成されるまで俳句から離れていた時期があった。



田布施町郷土館 所蔵

自由律俳句誌『層雲』と山頭火

『層雲』とは？

新傾向俳句？

正岡子規の門弟で、新傾向俳句運動の推進者であった河東碧梧桐(かわひがし・へきごとう)と、碧梧桐の門弟であった荻原井泉水(おぎわら・せいせんすい)が、明治44(1911)年に『層雲』を創刊する。初期の『層雲』は、新傾向俳句の公的機関誌とする見方が一般的であり、碧梧桐もまた「新傾向俳句の機関誌である」と認識していた。しかし、井泉水は「個人誌」と考えていたようで、両者の認識には差があったようである。

大正4(1915)年、碧梧桐との意見の対立もあり、以降は井泉水が主宰で季語無用の自由律俳句を提唱し『層雲』を牽引していく。



『層雲』創刊号の表紙 複製版より▶



神奈川県立近代文学館 所蔵

荻原井泉水

おぎわら・せいせんすい

明治17(1884)年～昭和51(1976)年
東京都生まれ。

河東碧梧桐に師事。のちに俳句誌『層雲』を発行する。自由律俳句の普及に熱心で、地方のみならず米国等へ移り住んだ同人らの地を訪ね、講演会や句会を通して交流をしていたようである。

自由律俳句？

■企画展に関連する荻原井泉水の年譜

- 明治44(1911)年
河東碧梧桐とともに俳句誌『層雲』を創刊。
- 大正3(1914)年
10月、中国、九州、四国地方への行脚の折に田布施、防府に立ち寄る。このとき地元『層雲』同人らによって歓迎句会が催された。
- 昭和3(1928)年
3月3日、別府の亀の井旅館にて井泉水の歓迎句会が催される。
- 昭和4(1929)年
11月、種田山頭火や『層雲』同人らと共に阿蘇登山。
- 昭和8(1933)年
11月、九州への旅の途中に小郡を訪問。
- 昭和11(1936)年
同町の旅館と其中庵にて俳談会、句会が催される。
- 昭和12(1937)年
4月、『層雲』創刊25周年記念中央句会
- 昭和16(1941)年
6～8月、ハワイ、北米、メキシコを訪問。
- 昭和25(1950)年
11月、久保白船宅を焼香のため訪ねる。
- 昭和41(1966)年
10月15日、山口県小郡町にて山頭火の句碑建立。碑に刻まれた山頭火の句は井泉水揮毫のもの。
- 10月8日、秋吉台にて一夜句会の面々と吟行。

種田山頭火 たねだ・さんとうか

明治15(1882)年～昭和15(1940)年

山口県佐波郡西佐波令村(現・防府市)出身。

大正2年『層雲』3月号に「田螺公」の俳号ではじめて句が掲載される。大正5年に『層雲』の俳句撰者となる。のちに各地を転々とするが、昭和7年9月20日、小郡の其中庵を生活拠点とし約6年間過ごす。



山口県小郡文化資料館 所蔵

久保白船 くぼ・はくせん

明治17(1884)年～昭和16(1941)年

山口県熊毛郡平生町出身。

のちに徳山(現・周南市)へ移る。

明治44年、『層雲』同人となる。

大正2年の『層雲』ではじめて句が掲載される。

大正15年前後、『層雲』本欄作家として活躍。

昭和5年頃、俳句誌「雑草」を創刊。



田村春枝氏 所蔵

『層雲』における“周防三羽ガラス”

『層雲』は月刊誌として書店で売られていたため、大衆の目に触れやすい雑誌であった。そのため全国から俳句が寄せられていた。読者たちは各地域で支部を作るなどして作句に励んでいたようである。大正4、5年頃、同じ県内から全国誌の俳句撰者として碧松、山頭火、白船の3人が選ばれたこともあり、『層雲』の主宰者・荻原井泉水をして「『層雲』の初期のメッカは徳山、三田尻(※現・防府)、田布施を中心とした周辺にあった」と言わせ、上記の3人は“周防三羽ガラス”と呼ばれるようになった。

発行 山口県小郡文化資料館
所在地：山口県山口市小郡下郷 609-3
問い合わせ：083-973-7071